

三井住友海上きらめき生命保険株式会社

人事総務部 〒101-8458 東京都千代田区神田錦町 3-11-1

TEL : 03-5282-7111(大代表)

www.ms-kirameki.com

2011年5月19日

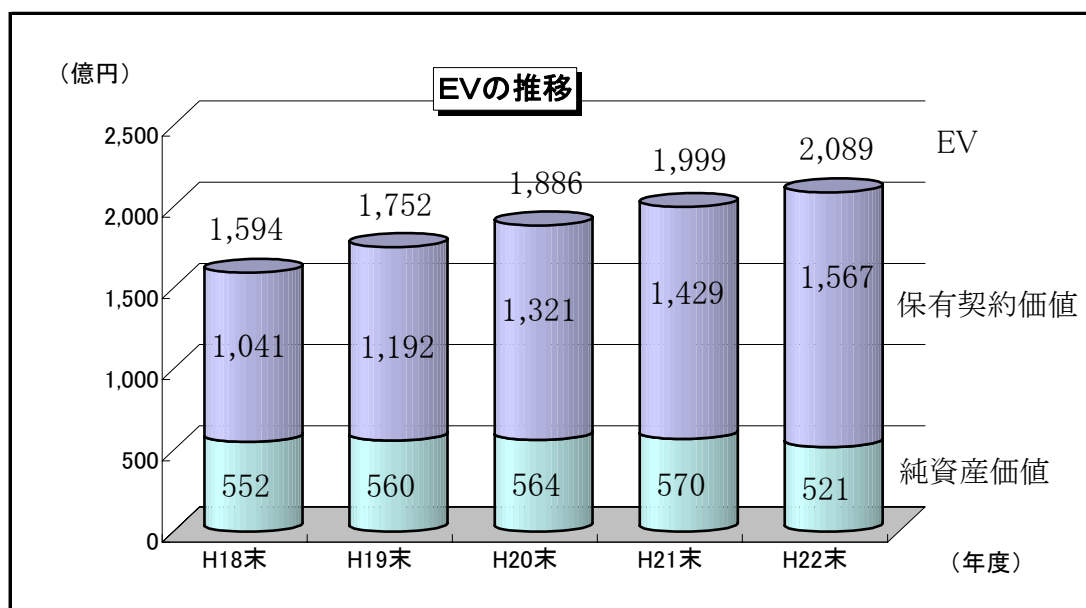
平成22年度末エンベディッド・バリューの開示

三井住友海上きらめき生命保険株式会社（社長 佐々木 静）は、当社の現状をよりご理解いただくために、平成22年度末におけるエンベディッド・バリュー（Embedded Value：以下「EV」という）を開示いたします。

【概要】

平成22年度末EVは**2,089億円**となり、前年度末対比で**89億円**（4.5%）増加しました。なお、純資産価値は標準責任準備金の積立完了に要した費用および経営統合関連費用等の影響により**48億円**減少していますが、保有契約価値は**138億円**増加しました。

平成8年10月開業以来、累計投下資本550億円に対して年平均12.4%の価値増加を果たしてきました。



【別紙資料】

平成22年度末エンベディッド・バリュー

本件に関するお問い合わせ先

三井住友海上きらめき生命保険株式会社

人事総務部 社会コミュニケーショングループ長 山口 高頭

経理財務部 主計グループ長 鈴木 登

TEL : 03-5282-8505

平成 22 年度末エンベディッド・バリュー

1. エンベディッド・バリューとは

エンベディッド・バリュー(Embedded Value:以下「EV」という)は、評価時点の純資産価値に保有契約が将来生み出す利益の現在価値(保有契約価値)を加えることにより計算されます。

現行の法定会計には、販売時に集中的にコストが発生し、後年になって利益が実現する等、業績の評価には使用しづらい面がありますが、EVは保有契約が生み出す将来の利益を現時点で評価しており、法定会計を補完し、業績や企業価値を評価するための有用な指標と言えます。

2. 平成 22 年度末EV

(単位: 億円)

	平成 20 年度末		平成 21 年度末		平成 22 年度末	
		増加額		増加額		増加額
EV	1,886	133	1,999	113	2,089	89
純資産価値 ^(注1)	564	4	570	5	521	△48
保有契約価値 ^(注2)	1,321	128	1,429	108	1,567	138
うち新契約価値 ^(注3)	58	4	50	△7	50	△0

(注1)「純資産価値」= 貸借対照表の純資産の部(除くその他有価証券評価差額金)

+ 負債中の内部留保(価格変動準備金、危険準備金、いずれも税引後)

+ 一般貸倒引当金(税引後)－退職給付の未積立債務(同)

+ 保有契約価値計算に含めない有価証券に係る評価差額金(同)

(注2)「保有契約価値」は、保有契約から生じる将来の税引後当期純利益を割引率により割り引いた現在価値です。ただし、この税引後当期純利益からは一定のソルベンシー・マージン比率を維持するために必要な内部留保額を控除しており、配当可能な株主利益の現在価値を計算しています。

(注3)「新契約価値」は、EV総額のうち当年度に獲得した新契約分の数値を表しています。

3. 主要な前提条件

保有契約価値の計算では、各種前提条件を設定しております。

主要な前提条件は以下のとおりです。なお、当社は2011年10月に、あいおい生命保険株式会社との合併を予定しておりますが、今回のEV計算に際して、合併に伴う影響は将来予測計算に反映しておりません。

前提条件	平成 21 年度末	平成 22 年度末
保険事故発生率	直近3年の支払実績および業界統計データより設定	同左
解約・失効率	直近3年の解約実績および業界統計データより設定	同左
経費	直近年度の経費実績に基づき設定	同左
資産運用利回り	新規資金を主に10年、15年、20年および30年国債に投資する。 新規投資利回り(直近年度の金利水準の平均を用いて設定) 10年国債 ----- 1.39% 15年国債 ----- 1.87% 20年国債 ----- 2.12% 30年国債 ----- 2.26% 主な年度の運用利回り H23年度 1.89% H27年度 1.95% H32年度 1.98% H37年度 1.98%	新規資金を主に10年、15年、20年および30年国債に投資する。 新規投資利回り(直近年度末の金利水準を用いて設定) 10年国債 ----- 1.23% 15年国債 ----- 1.79% 20年国債 ----- 2.06% 30年国債 ----- 2.19% 主な年度の運用利回り H23年度 1.84% H27年度 1.87% H32年度 1.88% H37年度 1.88%
実効税率	直近の実績(36.15%)	同左
ソルベンシー・マージン比率	800%を維持する	同左
割引率	7%	同左

4. 前年度末からの変動要因

平成 21 年度末 1,999 億円から平成 22 年度末 2,089 億円とEVは 89 億円増加いたしました。これは平成 22 年度に獲得した新契約やその他の要因によるものです。増加額を要因別に示すと次のとおりです。

(単位: 億円)

平成 21 年度末EV	1,999
①新契約価値	50
②平成 21 年度末EVからの期待収益 (注1)	104
③前提条件と平成 22 年度実績の差異 (注2)	△30
④金利変動等の影響 (注3)	△32
⑤その他の前提条件変更の影響 (注4)	△2
平成 22 年度EV増減額 (①～⑤の合計)	89
平成 22 年度末EV	2,089

(注1) EVは割引率を使用して計算しているため、計算時点が1年進むことによって発生するEVの増加額です。

(注 2) 平成 21 年度末で設定した前提条件と平成 22 年度実績との差異によるEVの増減額です。

(注 3) 市中金利の変動に伴い資産運用利回りの前提条件を変更したこと等によるEVの増減額です。

(注 4) 保険事故発生率、解約・失効率、経費等の前提条件を変更したことによるEVの増減額です。

5. 前提条件を変更した場合の影響 (感応度)

(単位: 億円)

前提条件の変更	EVへの影響	EV額
保険事故発生率を 1.1 倍にする	△108	1,980
解約・失効率を 1.1 倍にする	△23	2,066
経費(契約維持に係わる分)を 1.1 倍にする	△47	2,041
新規投資利回りが 0.25%上昇した場合	82	2,171
新規投資利回りが 0.25%下落した場合	△83	2,006
ソルベンシー・マージン比率を+100% (900%に変更)	△0	2,089
ソルベンシー・マージン比率を-100% (700%に変更)	0	2,089
割引率を+1% (8%に変更)	△116	1,972
割引率を-1% (6%に変更)	136	2,226

6. ご使用にあたっての注意事項

EVの計算においては、リスクと不確実性を伴う将来の見通しを含んだ前提条件を使用するため、将来の実績がEVの計算に使用した前提条件と大きく異なる可能性があります。また、EVは生命保険会社の企業価値を評価する唯一の指標ではなく、実際の市場価値は、投資家が様々な情報に基づいて下した判断により決定されるため、EVから著しく乖離することがあります。EVの使用にあたっては、こうした特性に留意し、十分な注意を払っていただく必要があります。

7. 独立した第三者機関による妥当性の検証

当社は、専門的知識を有する第三者機関(アクチュアリー・ファーム)であるタワーズワトソンに、EVの計算方法、前提条件の設定、計算結果の妥当性の検証を依頼し、以下の意見を受領しております。

三井住友海上きらめき生命保険株式会社の2011年3月31現在のエンベディッド・バリューについてのタワーズワトソンの意見

タワーズワトソンは、2011年3月31日現在の三井住友海上きらめき生命保険株式会社（以下「きらめき生命」）のエンベディッド・バリューに関して、適用された評価方法と前提および計算結果の検証を行いました。タワーズワトソンが計算結果の検証を行った範囲は、きらめき生命によって計算された2011年3月31日現在のエンベディッド・バリュー、2010年度新契約の価値、2010年度中のエンベディッド・バリューの増減および前提を変えた場合のエンベディッドバリューの感応度でした。

タワーズワトソンの意見は以下のとおりです。

- 適用された評価方法は、従来から行われている保険数理的企業価値評価方法（決定論的シナリオによる将来収支予測結果に割引率を適用して計算基準日現在の価値を求める方法）に関する業界実務と整合的なものです。
- 経済前提は相互に整合的であり、計算基準日時点の経済状況を参照して設定されています。
- 死亡率、発生率、継続率、事業費等の事業前提は、きらめき生命の事業の特性を考慮し、過去、現在および将来期待される実績を適切に反映して設定されています。
- タワーズワトソンはさらに計算結果についても検証を行っています。これは、計算モデル、計算過程および計算内容の全てについての詳細な検証ではありませんが、これらの検証の結果、タワーズワトソンは、開示される計算結果が、全ての重要な面において本開示資料に記述された計算方法および計算前提に基づいて計算されていると考えます。
- リスク評価は単一のリスク割引率および必要資本水準についての前提を適用する方法によって行われており、従来から行われている保険数理的企業価値評価方法に関する業界実務と整合的に行われています。このようなリスク評価は、各キャッシュフローについて市場で取引されている類似の金融商品と整合的に評価を行う方法（いわゆる市場整合的手法）とは必ずしも一致するものではありません。

検証を行うに当たり、タワーズワトソンはきらめき生命より提供された数多くの資料に大きく依拠しています。これら資料についてのタワーズワトソンによる独立した確認作業は行われていません。

エンベディッド・バリューの計算で使用する将来予測は、現在および将来の事業環境について設定された様々な前提に基づいて計算されますが、いかに前提が妥当に設定されていたとしても、実際の結果は予測結果から乖離するものであることにご留意ください。

また、エンベディッド・バリューは市場価値についての意見を表明することを意図するものではなく、そのように解釈されるべきでもありません。

この意見はきらめき生命との契約に基づき、きらめき生命のみに対して提供されるものです。適用される法律において許容される限り、タワーズワトソンは、弊社が行った検証作業や弊社が作成した意見および意見に含まれる記述内容について、きらめき生命以外のいかなる第三者に対しても、一切責任、注意義務あるいは債務を負いません。

以 上